

土佐和紙×現代サーカス/国際共同ラボ 「Matièresマチエール」発表会

現代サーカスと高知の「土佐和紙」を掛け合わせたら、どんな世界が生まれるだろう？

サーカスと和紙って、どうつながるの?!と思われるかもしれません。

瀬戸内サーカスファクトリーは、これまでに鉄工、石加工、木工など、さまざまな地域産業や職人さんの作るモノをサーカス器具にしたり、舞台美術にするなどして、独創性の高い現代サーカス作品をつくってきました。

ヨーロッパの現代サーカスレーベル「circusnext」との共催により、土佐和紙をテーマに創作ラボラトリー「Matièresマチエール」を実施いたします。フランスより2人のアーティストが来日し、日本人プロ・サーカスアーティストとともに約10日間を過ごし、高知のWashi+ / 鹿敷製紙などの協力をいただき、土佐和紙を使った現代サーカス表現を実験し、中津万象園展示室にて、トークと実技を交えて成果を発表いたします。

登壇・出演：

◆ Inbal Ben Haim インバル・ベン・ハイム (イスラエル)

エルサレム出身。造形芸術を志した後フランスに渡り、フランス国立サーカス大学CNACで学び、卒業。美術と現代サーカス、その他のジャンルを横断した作品づくりは注目を集め、2021年、ヨーロッパ現代サーカスプラットフォーム「circusnext」のコンクールで大賞を受賞。

◆ Domitille Martin ドミティユ・マルタン (フランス)

パリの国立高等装飾美術学校を卒業。造形作家、複合的な素材を使った彫刻家として、パフォーマンスの演者が動き回る空間の舞台美術を手掛ける。彼女の手に係ると、人間だけでなく、動物・植物、鉱物なども「変貌/メタモルフォーゼ」をとげていく。Pierre Gautier-Delaye賞の大賞を獲得し、202~2021年のパリ国際芸術都市レジデンス・アーティストとなる。



©RobinMinazio

Aki Yoshida
Aimi Hasegawa

◆ 吉田亜希 Aki Yoshida
(エアリアル、オリジナル器具のアーティスト)

◆ 長谷川愛実 Aimi Hasegawa
(エアリアルアーティスト)

◆ 谷口界 Kai Taniguchi
(シルホイール・アーティスト)
ほか、ラボラトリー参加日本人アーティスト



Photo: Reiko Wakai



日時：2023年7月30日 ①10:30-12:00 / ②14:30-16:00

※2回公演 ※展示室開場はそれぞれ開演10分前

登壇・発表者：Inbal Ben Haim、Domitille Martin、
吉田亜希、長谷川愛実、谷口界 ほか参加アーティスト

モデレーター・通訳：田中未知子

内容：プロジェクトについて / インバル・ベン・ハイムら 2人の
フランスにおける創作 / 舞台作品「Pli」の紹介 /
高知でのラボ報告 / ワーク発表 (身体を使った発表)

観覧料：大人1,700円、中学生以下1,000円 (中津万象園入場料込)

定員：各回50人 ※定員に達し次第、締め切り。

ご予約：右のQRから予約フォームに入力ください。

お問い合わせ：info@scf.or.jp

※QRがご使用になれない方は、お名前、人数、ご連絡先メールアドレス、大人・中学生以下区分、①回目公演が②回目公演が明記のうえ上記メールにお申し込みください。



会場：中津万象園展示室内 (丸亀市中津町25-1)

<アクセス>

JR讃岐塩屋駅より徒歩約15分

JR丸亀駅よりタクシーで約6分

駐車場：自家用車100台まで



地図リンク↑

